

要・第十一集・一九九〇年三月Vを、今回構想を新たに、標題を改め隨所に大幅な加除修正を施して、全面的な補整更新を行ったものである。（念のため、為念付記する。）

（杏林大学）

野口英世の師、渡辺鼎の業績

石原理年

一八九二（明治二〇）年、火傷後の開指術により野口英世を医に進ませた渡辺鼎については、谷津三雄「ドクトル渡辺鼎について」、友田康雄「会津藩医学史並びに明治以後の医史」でその略歴は紹介されているが、今回、在日中の業績について説明を試みる。

渡辺鼎は、一八五八（安政五）年九月七日、現福島県耶麻郡西会津町野沢に、渡部思齊の長男として生まれた。父は一八二九年野沢に生れた僧で、漢学を良くし寺小屋「研幾堂」を開塾、県議会の前身福島県民会議員を勤める等した。鼎は、一八七一年高島易断の創始者、実業家の高島嘉右衛門が、西洋学に基づく人材育成のため、横浜伊勢山下に設立した高島学校に入学、ジョン・バラに英学、モリスに

理化学を学び、一八七四年開成学校に通学の傍らドクトル・セメンズ、岩佐純らに師事した。一八七七年四月警視局医試験合格、警視第二病院に勤務、同年六月陸軍々医試験合格、陸軍々医試補として西南戦争に転戦、一八七八年六月大阪鎮台歩兵連隊副官として、大阪に勤務するとともに、看護人教育の切要を東京医事新誌八七号に論ずるなど、研究、啓蒙活動を展開した。

一八八〇年大阪鎮台病院課僚の傍ら、大阪私立医学舎を、東区内淡路町一丁目に設立、一八八一年博濟堂病院附属医学校にも教鞭をとり、生理・病理・内、外科・薬理の五科学を双方で講じ、病院内では看護卒にも医・看護学を教授したという。私立医学舎には、小池正直らを講師に擁し、臨床講義は陸軍病院を使用する等したので、生徒数も増加し、創立二年目にして大手通二丁目に分校舎を設立した。

激増する脚気病対策に、陸軍々医部は全軍医に意見書を求めたが、その稿に基づくものが、正八位渡辺鼎著『脚気病新説』一八八一年九月刊、医学舎蔵板、百二十六頁である。本書は、脚気病の沿革をインド地方の「ベリベリ」に

求め、英医アツキンの内科書「脚気新説」により、症型を急性・慢性期に区分、病因論は栄養障害、神経血液系疾患等について、療法として高燥地への転地、亜硫酸・砒石の内服、牛乳の飲用等を述べ、ベルツ等諸家の論述を含め紹介している。

続いて軍医本部は、兵食改良意見を求めたが、これに応じたものが「日本兵士食料改正意見」東京医事新誌二二七―二四二号である。小池正直は後記を附し「日本兵士食料ノ改正ハ蓋シ急務中の急務ナルガ故ニ大方君子ノ高案ヲ叩クヲ実ニ此時ヨリ宣キハ莫シ是ヲ以テ余君ヲ促シ……」と鼎に論述発表を急がせたので、文責は小池自ら負うとしてゐる。論旨は、各種食品栄養成分々析の他、成人一日当り蛋白質一二〇瓦、無窒素物四二〇瓦の摂取を要すこと等、小池の「大日本兵卒食料改正意見草案」二二〇―二三五号と殆んど同論である。更に鼎は、病原の究明に病理解剖は不可欠であるが、我軍に於てはこれを禁じているのでも述べている。

他に、医事合同社学務委員等も歴任していたが、一八八三年、歩兵第五連隊副医官として青森に転任の後、一八八

四年六月東京憲兵隊第一大隊医官となるに伴い、研究啓蒙活動を再開した。

「脚気病毒発明論」東京医事新誌三三九〜三四〇号を、一八八四年陸軍々医学会で発表、脚気病患者の血液中に「ミクロコックス」なる脚気球状微菌を検出、Micrococcus beriberiと命名したと述べているが、これは緒方正規の『脚気病菌発見の儀開申』一八八五年四月七・八日官報の前年である。

更に同年、大日本私立衛生会の常会に於て、奥羽地方病論、食物の店頭陳列には、箱をガラス板で被うことを、衛生上立法化する必要性を論じたりしている。陸軍々医学會幹事、同学会兵士食物改正意見起稿者等にも選任されているが、感ずる処あり軍を辞して、一八八五年十二月カリフォルニア大学医学部に留学した。

一八九〇年父思齊の急逝により帰国、同年六月会津、若松大町に会陽医院を開業、一八九一年十月野口英世の開指術、その翌年野口に入門を許したことは有名である。

一八九四年日清戦争のため、陸軍第二師団野戦病院医官として応召、一八九六年春帰国し、会陽医院を再開した。

一九〇二年八月第七回総選挙に、若松選挙区より政友会選出候補として出馬、衆議院議員に初当選したが、桂内閣の失政により解散、一九〇三年三月第八回総選挙に再選したが、一九〇四年の第九回総選挙には、日露戦争に応召のため不出馬、帰国後の、第十回総選挙では次点に泣いている。

以後は、地元医師会活動を中心に、益友医会々々長、大日本医會会津支部長、若松医師会長等を歴任すると共に、一九〇六年ドイツよりラジウムが輸入されたと聞くや、早速上京これを求めて、その療法を導入する等、漸進な活躍を続けたが、一九三二年七月一八日、七五才で東京市大森区北千束町にて逝去、陸軍二等軍医正、従五位勲四等であった。

渡辺鼎の生涯は、兵食改良と、衛生面に係った軍医前半期と、野口の師及び政治活動を中心とした後半期に大別される。

(京都大学生体振動学教室)